

# 宮中和歌の世界

—うたのいろいろどり—

学習院大学史料館 平成30年度春季特別展

宮中文化に深く結び付いた  
豊かな和歌の伝統をお楽しみください



題字「和歌」は後水尾天皇筆和歌懐紙  
「詠漸待花和歌」(個人蔵・前期展示)より



## 平成30年4月2日(月)～5月26日(土)

開室：月～土曜日 10:00～17:00 閉室：日曜、祝日  
\*4月15日(日)「オール学習院の集い」の日は特別開室  
会場：北2号館1階 学習院大学史料館展示室

**入場  
無料**

〒171-8588 豊島区目白1-5-1  
北2号館1階 学習院大学史料館展示室  
03-5992-1173  
<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/ua>

### 【関連講座】第85回学習院大学史料館講座

「歌会始における和歌の披講」 講師：早稲田大学教授 園池公毅氏  
日時：平成30年4月21日(土) 14:00～15:30(13:30開場予定)  
会場：学習院創立百周年記念会館 正堂 \*入場無料 事前申し込み不要

### 【ギャラリートーク】

日時：4月15日(日)、5月12日(土)  
いずれも14:00から30分程度、展示室内にて



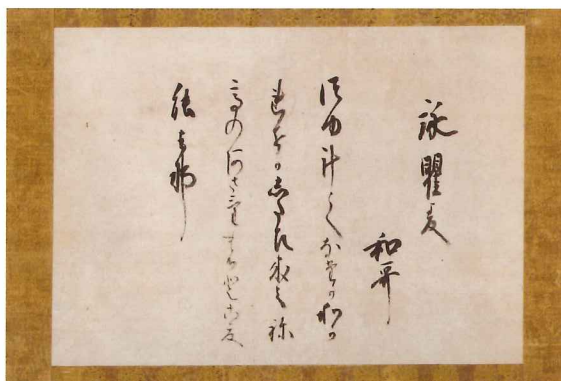
古代以来、わが国の人々は、豊かな四季の移ろいの中で、日々の生活の機微を歌に詠み交わしてきました。時の帝をはじめ、広く人々の和歌を集めた勅撰和歌集は、平安時代の古今和歌集以降、室町時代の新続古今和歌集に至る21を数えます。政権が武家に移るなかで、和歌は公家社会の文化的核として重視され、勅撰の命を受けた選者などを中心に歌壇が形成されました。一方、古今和歌集の読みや解釈の伝承を家職とする公家も現れ、その授受は「古今伝授」として権威をもちました。江戸時代に宮中に伝えられた伝授は「御所伝授」として公家文化の求心力となり、幕末に伝えられます。

近代になり、明治天皇・昭憲皇太后は多数の御製・御歌を残されます。宮中には御歌所が置かれ、現代につながる宮中の歌の新しい伝統が創造されました。こうした中に、広く人々が御題を詠んだ歌を披講する歌会始の姿が現れてくるのです。

この展覧会では、第一章に「勅撰集から古今伝授」、第二章では「歌会始の世界」、第三章は「学習院と歌」をテーマとし、古代から継承されてきた和歌の伝統を、宮中ゆかりの作品を通じて多面的に紹介します。

## 主な展示物

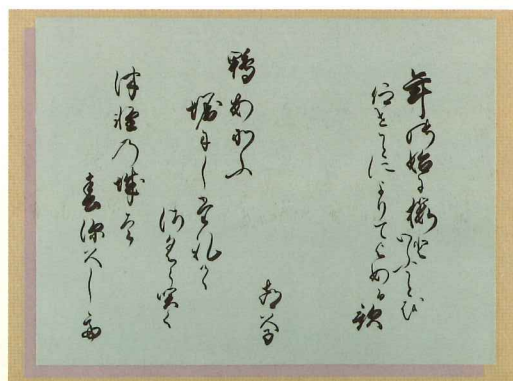
後水尾天皇筆 和歌懐紙 個人蔵



植松抱良 真木立山詩絵硯箱 個人蔵



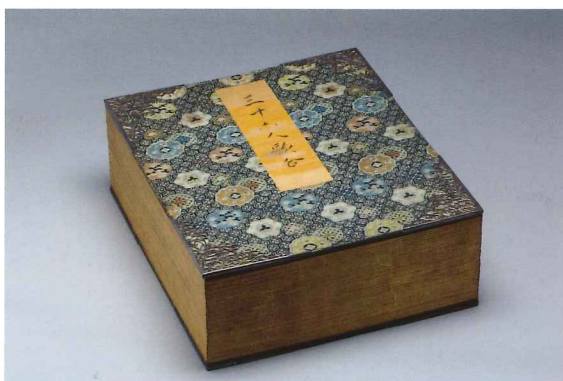
高松宮妃喜久子筆 懐紙 個人蔵



高松宮皇仁親王筆 扇面「撫子」



三十六人歌合帖 個人蔵



楊洲周延「宮中月並御歌会」個人蔵



\*会期中、展示替えをおこないます。